

特別展 「日本妖怪展」

会期：2025年9月13日(土)～11月3日(月・祝)

観覧料：一般 700 円／中学生以下無料

妖怪は、その時代の社会背景・不安・興味などを映し出す「社会の鏡」として表現されてきました。また、日本人の郷愁の念と結びつき、その土地々々の風土・風習と密接につながりながら独自の世界を形成し、世代を超えて親しまれています。

今回の特別展では、広島県三次市の「湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）」の日本一といわれる妖怪コレクションや当館所蔵の妖怪資料から妖怪の姿や妖怪文化の広がりを紹介します。（湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）蔵）



於百図刺子半纏

特別展 「白山信仰と三河三白山」

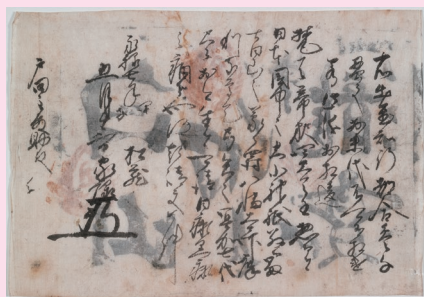
会期：2025年11月22日(土)～2026年1月18日(日)

観覧料：一般 500 円／中学生以下無料

安城市内に所在する大岡白山神社(大岡町)・白山媛神社(上条町)・桜井神社(桜井町)の三社は、江戸時代には総称して「三河三白山」と呼ばれました。三社には徳川家康や幕府より朱印地が与えられたなどの由緒が伝えられています。

三社に共通する白山信仰は石川県・福井県・岐阜県にまたがる白山を神体としたものです。白山は泰澄によって開山ののち、登山道(禅定道)が開かれ、加賀の白山本宮(石川県白山市)・越前の平泉寺(福井県勝山市)・美濃の長瀧寺(岐阜県郡上市)の三馬場がその拠点として栄えました。三河でも、家康らによる起請文の発給、庶民による白山参詣など、白山信仰をめぐる諸相を文書から読み取ることができます。

本展では各地に残る白山信仰の関連史料をもとに、白山信仰と三河三白山の由緒について紹介します。



松平家康起請文(名古屋博物館蔵)

企画展 「村中安全ー江戸時代の村と人々の営みー」

会期：2026年2月7日(土)～3月22日(日)

観覧料：無料

江戸時代の村は、領主により支配されていました。大名の治める藩がない安城市域は一領主の支配ではなく、刈谷藩領などの大名や旗本、寺社が領地を持つ地域でした。また一つの村の中でも複数の領主が支配する相給村もありました。

村は年貢を納めるだけではなく、用水の管理や治安や防災などを自主的に行っていました。また、村同士で村境・土地の争い、川や池の水で争いがあれば、自分たちで領主や幕府に訴えました。村でのケンカや泥棒、心中や駆け落ち事件などは村中で解決しました。村人の願いは自分たちが安全に暮らしていくことが一番でしたが、災害やはやり病、幕府や領主からのお達しなど絶えず難題が村に降りかかりました。

村人たちはいかにして生き抜いてきたのか。今回の展示では、これまであまり注目されなかった江戸時代の村や、村人の暮らしぶりを古文書や絵図、民具を通して紹介していきます。



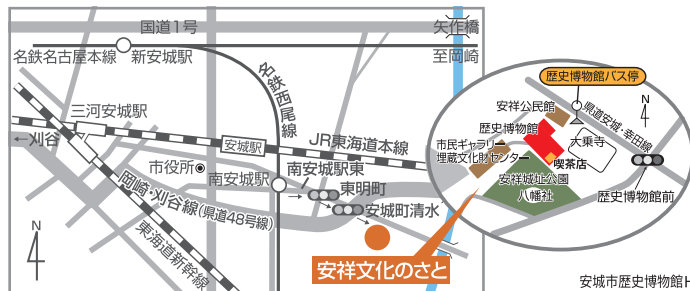
安城村絵図

利用案内

〔常設展観覧料〕個人 200 円(中学生以下無料)・団体(20人以上)160 円
障がい者手帳等お持ちの方及び同伴者1名様 100 円
〔開 館 時 間〕9:00～17:00(入館は16:30まで)
〔休 館 日〕毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始(12/28～1/4)

交通案内

- 名鉄西尾線南安城駅より東へ徒歩15分
- JR東海道本線安城駅より、あんくるバス(1番系統安祥線)川島行き10分
- JR東海道新幹線三河安城駅よりタクシー 20 分
- 無料駐車場(230台収容)あり



安城市歴史博物館HP

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地

電 話 / 0566-77-6655 FAX/0566-77-6600

<https://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館



安城市歴史博物館 催し物案内

2025.10-2026.3

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY



白山垂迹曼茶羅(神光寺蔵)